

第125回日本眼科学会総会 モーニングセミナー 14

Alcon

日時：2021年4月10日（土）7：30～8：30

会場：第7会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場

パラダイムシフト

～白内障手術のNew normal～



座長



3焦点眼内レンズの特性と利点

東京歯科大学水道橋病院 **ビッセン宮島弘子**先生

白内障手術は、高機能眼内レンズや、検査機器、手術装置に新しいテクノロジーが導入され、視機能を向上させるばかりではなく、患者が希望する見え方を提供する白内障屈折矯正手術として認識されるようになってきた。このような白内障手術の改革や価値観の変化は、「パラダイムシフト」と言っても過言ではないだろう。すでに、術後の屈折を考慮した眼内レンズ度数を選択し、患者満足度をあげる白内障手術が広く施行されているが、さらに新しい眼内レンズが登場し、その機能を十分に活用させることができる術前および術中測定装置が開発された。これらにより、眼内レンズ度数選択の精度が向上し、白内障屈折矯正手術がより確かなものになっている。本セミナーでは、これらの技術を

積極的に導入している4名の演者に、その特徴と利点をご説明いただき、これまでの白内障手術と何が変わったのかについて、わかりやすくご講演いただく。

後藤聡先生に、精度の高い眼内レンズ度数決定に重要なセグメント方式の光学式眼軸長測定(ARGOS[®])の特性について、繪野亜矢子先生に患者のニーズを考慮した眼内レンズの選択について、荒井宏幸先生に術中に波面収差解析により眼内レンズの度数や乱視軸を確認できるORA術中波面収差解析装置について、最後に私から国内初承認の3焦点眼内レンズ(PanOptix[®])の特性について解説する。この機会に、白内障手術のNew normalを感じていただければ幸いである。

演者



眼軸長測定の
New Normalを考える

大阪大学

後藤 聡先生

演者



屈折矯正術後眼の
ORA[™]の有用性

みなとみらいアイクリニック

荒井 宏幸先生

演者



多焦点レンズ選択
New Normal Method

えの眼科

繪野 亜矢子先生

共催：第125回日本眼科学会総会／日本アルコン株式会社

Alcon

SMS333-1